000364

弘法大師 空海全集

第一卷

筑摩書房

訳注者・解説者（五十音順）
遠藤祐純（えんどう　ゆうじゅん）
大正大学助教授
福田亮成（ふくだ　りょうせい）
大正大学専任講師
宮坂宥勝（みやさか　ゆうしょう）
名古屋大学教授
吉田宏晧（よしだ　こうせき）
大正大学教授

弘法大師空海全集　第一巻
昭和五十八年十一月四日　初版第一刷発行
昭和六十一年八月三十日　初版第七刷発行

編者　弘法大師空海全集編輯委員会
京都市東山区東山七条　総本山智積院内
真言宗智山派
宗祖弘法大師千百五十年御遠忌奉修局
代表　小沢照禧
編輯代表　宮坂宥勝

発行者　布川角左衛門

発行所　筑摩書房
東京都千代田区神田小川町二ノ八
郵便番号　一〇一－九一
電話　東京(291)七六五一(営業)
東京(294)六七一一(編集)
振替　東京　六－四一二三

印刷　株式会社精興社
製本　株式会社鈴木製本所

落丁・乱丁本はお取替致します

Printed in Japan　ISBN4-480-77001-1　C0315

凡　例

一　本巻には弘法大師空海の主著『秘密曼荼羅十住心論』十巻の訓み下し文、ならびに現代口語訳を収めた。なお、本書の略論である『秘蔵宝鑰』三巻は本全集第二巻に収める。

一　『十住心論』の訓み下し文、口語訳、訳注の作成にあたっては、長谷宝秀編『弘法大師全集』（増補第三版）を底本とした。

一　本文は二段組みとし、上段に訓み下し文、下段にその口語訳を掲げた。また、本書の構成を分かりやすくする目的で、適宜、本文の内容を分科し、段落ごとに見出しを付した。

〔訓み下し文〕

一　訓読は原則として前記『弘法大師全集』に付された訓みに従ったが、一部に勝又俊教編修『弘法大師著作全集』、川崎庸之校注『日本思想大系5・空海』（承安本）を参照し、また訳者独自の判断によって、訓みを改めたところもある。

一　訓み下し文は、内容に従って適宜改行をほどこし、句読点・並列点（・）を入れて読みやすくした。また、底本で二行割書きとなっている箇所は、〈　〉を付して小活字で一行に組んだ。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

一　漢文の助字、もしくは副詞・代名詞・接続詞その他に相当する漢字の多くを仮名書きに改めた。

（例）夫　若　是　此　之　其　以　云　曰　言　謂　即　則　乃　又　亦　復　有　無　所　不　非　也

ただし、とくに意味を考えてそのままとした場合もある。

一　底本に使用されている古字・略字・俗字などの異体字は、おおむね正字体、もしくは現行の字体に改めた。

（例）漫荼羅・曼荼羅→曼荼羅　陁→陀　取→最　虗→虚　職→職　鬚→鬘　鈎→鉤　迴→廻

傷→慢　皷→鼓　躭→耽　羝→羝　尋→碍　弃→棄　躰→体　薀→蘊

なお、あえて通行の字体に改めなかったものもある。

（例）辯・辨（弁）　龍（竜）　廻（回）　燈（灯）　毗（毘）　慧（恵）　癡（痴）　雙（双）

一　訓み下し文のみ、仮名遣いをすべて歴史的仮名遣いとし、難読語、仏教独自の読み方をする言葉をはじめ、漢字にはできるだけ多くのふり仮名をほどこした。

一　経論などの書名には『　』を、引用文に相当する個所には「　」を付した。

〔口語訳〕

一　下段に掲げた口語訳は、上段の訓み下し文と対照しつつ読むことができるよう、できるだけ原文に忠実に、かつ平易な訳をむねとした。

一　訳文中の（　）は、文意をとりやすくするため、原文にない語句を訳者が補ったことを示し、小さな〔　〕は、原文に出てくる術語を補って、上の訳語との関係を明らかにしたものである。また小さな（　）で挿入したものは、上の術語に対する簡略な説明である。

一　経論の名称や人名は、口語訳では通称に従い、また略称を改めた。

（例）　大毗盧遮那経→大日経　智度論→大智度論　正法念経・正法念→正法念処経　倶舎→倶舎論　正理論→順正理論　瑜伽→瑜伽論、瑜伽師地論　婆沙→大毘婆沙論　唯識→成唯識論　十住論→十住毘婆沙論

〔訳　注〕

一　仏教の専門的な術語や難解な語句には、訓み下し文に指示番号を付して、各巻ごとの末尾に一括して注記を掲げた。

一　それぞれの注記の冒頭で、各住心の概要を簡単に説明した。なお、とくに真言密教の術語の詳しい解説を「補注」として、まとめて本巻末尾に掲げてあるので、併せて参照されたい。

一　本文中の経論などの引用個所の出典については、注記に『大正新脩大蔵経』の該当する巻数・頁数・上、中、下段の別を、（大正二三・一八九上）のように表示した。

一　本文に出てくる音写語は、注記にその原語（梵語）の音を片仮名書きとローマ字で掲げた。

本巻の訓み下し文、口語訳、訳注の作成に際しては、巻一から巻三までを福田亮成、巻四・巻五を遠藤祐純、巻六・巻七を吉田宏晢、巻八から巻十までを宮坂宥勝が、それぞれ原稿を用意し、全体を通じての訳文の体裁、訳語、注記などの整理と統一を宮坂宥勝が担当した。

一九八七年十月吉祥

贈呈

弘法大師 空海全集 全八巻

日本国 川崎大師平間寺

中国佛教文化研究所殿

目

次

凡例……v
秘密曼荼羅十住心論……三
卷第一　序……五
異生羝羊住心第一……一六
卷第二　愚童持斎住心第二……三七
卷第三　嬰童無畏住心第三……三二
卷第四　唯蘊無我住心第四……二九九
卷第五　抜業因種住心第五……三五九
卷第六　他縁大乗住心第六……三九三
卷第七　覚心不生住心第七……五二三
卷第八　一道無為住心第八……五六三
卷第九　極無自性住心第九……五九九
卷第十　秘密荘厳住心第十……六六七
補注……七五

第一卷 思想篇一

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

秘密曼荼羅十住心論

遠藤祐純
福田亮成
宮坂宥勝
吉田宏哲

訳注

秘密曼荼羅十住心論　卷第一

〔帰敬序〕

婀・尾・羅・吽・欠の
最極大秘の法界体と
舸・遮・吒・多・婆・埵の慧と
咿・汙・哩・嚧・翳の等持と
制体・幢・光・水生・貝と
五鈷・刀・蓮・軍持等と
日・旗・華・観・天鼓の渤と
薩・宝・法・業・内外の供と
捏・鋳・刻の業と及び威儀との
能所無礙の六丈夫と
かくの如くの自他の四法身は
法然として我が三密に輪円し
天珠の如くに渉入して虚空に遍じ
重重無礙にして刹塵に過ぎたまへ
るを

婀・尾・羅・吽・欠の文字で示された
最大にして秘密のきわみなる真理の世界そのものと
舸・遮・吒・多・婆・埵という子音の男声で表徴された智慧の世界
と
咿・汙・哩・嚧・翳という母音の女声で表徴された瞑想の世界と
大日如来の五輪塔と、宝幢如来の幢と開敷華王如来の宝珠の光と無
量寿如来の蓮華と天鼓雷音如来の法螺とをもって表徴される三昧
耶曼荼羅の如来と
普賢菩薩の五鈷と文殊菩薩の刀剣と観世音菩薩の蓮華と弥勒菩薩の
瓶等をもって表徴される三昧耶曼荼羅の菩薩と
大日・宝幢・開敷華王・無量寿・天鼓雷音の五如来と
金・宝・法・業等の十六大菩薩と嬉・鬘・歌・舞の内の四供養菩薩、
香・華・燈・塗の外の四供養菩薩とをもって表徴される大曼荼羅の
菩薩と
乾漆・鋳造・木彫で仏・菩薩の尊容および振舞いとを示した羯磨曼

帰命したてまつる
一〇天の恩詔を奉りて秘義を述ぶ
群眠の自心に迷へるを驚覚して
平等なる本と四曼と
入我我入の荘厳の徳とを顕証せしめん

茶羅の仏・菩薩との
宇宙万有を構成している地・水・火・風・空・識〔六大〕と、これらによって構成されている宇宙万有はわけへだてがなく
このような自他円満なる法身大日如来は
あるがままに行者の身体・言葉・意のはたらきに具わっていて
帝釈天の宝珠をつらねた網のように虚空に遍満し
たがいに重なりあってわけへだてがなく、もはや数えることすらできないほどに数限りのない仏に
敬礼したてまつる
今、天皇の勅命をお受けして秘密の教えを説こうと思う
自覚していない者たちが、自らの心に迷っているのを驚き覚まして
平等な六大と四種の曼荼羅と
大日如来と自己とが一体となる世界を荘厳る徳とを明らかならしめよう

〔大章序〕

それ宅に帰るには必ず乗道に資り、病を愈すには会ず薬方に処る。病源巨多な

そもそも家に帰るには、かならず車と道とによる。病気を治すには、かならず薬と処方とが必要である。病気になる原因は無数であるから、

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com